

# 視 察 ・ 研 修 等 報 告 書

令和元年11月11日

北上市議会議長 様

北上市議会 北上まほろばクラブ

代表 梅 木 忍

次の 視察 ・ 研修 について結果を報告します。

期間（期日）	令和元年10月29日（火）～31日（木）
視 察 先	1. 高知県須崎市・集落活動センター「あわ」
視 察 内 容	2. 全国市議会議長会研究フォーラム in 高知
ま た は	於：1. 高知県須崎市
研 修 事 項	2. 高知県高知市
参 加 者	梅木 忍、三宅 靖、平野 明紀

## [内容及び所感]

### 1. 集落活動センター「あわ」

#### (1) 集落活動センターとは

「集落活動センター」とは、主として中山間地において、地域住民が主体となって、地域外からの人材も受け入れながら、旧小学校や集会所などを拠点に、それぞれの地域の課題やニーズに応じて、生活、福祉、産業、防災といった様々な活動に総合的に取り組む仕組み。高知県が主導し、申し出があった地域を審査し、その地域の自治体とともに、活動を支援している。

#### (2) 集落活動センター設立手順

##### ①地域の選定

- ・市町村で集落活動センターに取り組むことの内部決定

##### ②地域リーダーや関係機関との検討

- ・地域の課題、将来像の検討
- ・活動内容のアイデアだし
- ・地域での検討方法の協議
- ・高知ふるさと応援隊の導入、活用の検討（準備段階から導入する場合）

\*地域外人材は、プレイヤーとしての期待だけでなく、将来ビジョンの策定段階での地域外の視点、新たなネットワークづくりのためにも有効

### (3) 地域ビジョンの作成

- ・住民座談会やワークショップ等を通じて、地域の課題や将来像の整理、共有  
(座談会等では市町村・地域支援企画員・高知ふるさと応援隊等が助言等を行う)
- ・課題解決策の手法として集落活動センターという仕組みづくりの検討
- ・住民の合意形成(集落総会などで総意確認)

\*必要に応じて集落活動センター推進アドバイザー制度の活用や研修会への参加等

### (4) 集落活動センターの活動計画

- ・集落活動センターとしてどのような活動をするか等の計画作成  
(計画作成にあたっては、市町村・地域支援企画員等が助言等を行う)
- ・運営組織や拠点施設の検討  
(体制や規約等の検討にあたっては、市町村・地域支援企画員等が助言等を行う)
- ・高知ふるさと応援隊の導入・活用の検討(立ち上げ後に導入する場合)
- ・住民の合意形成(集落総会や運営組織の総会等で活動計画の周知・承認)

### (5) 市町村の支援

- ・それまでの話し合い等の結果をもとに、予算措置、支援体制などの決定

### (6) 集落活動センターあわ

◆場所：JA 土佐くろしお安和事業所(仮)・・・高知県須崎市安和 905

◆安和地区：729人 340世帯(R1.9月末現在)

#### ◆地域の現状と課題

安和地区は須崎市の西部中土佐町との境に位置し、大きく6つの部落に分かれている。バイパスが須崎市より西部に延伸したことから交通量が激減し、交流人口減少が課題。

また、市内の各地域同様に少子高齢化が進んでおり、平成25年度から、保育園統廃合の提案があり、小学校についても統廃合の計画が議論されている。

地域にはビワ・ポンカン・文旦の柑橘類の生産や、固有の虎模様の竹である虎斑竹が有名である一方、特に中心となる地域産業がない。

大学進学や就職で地域外へ転出する若年層が多く、過疎化が進んでいる。

#### ◆これからの地域

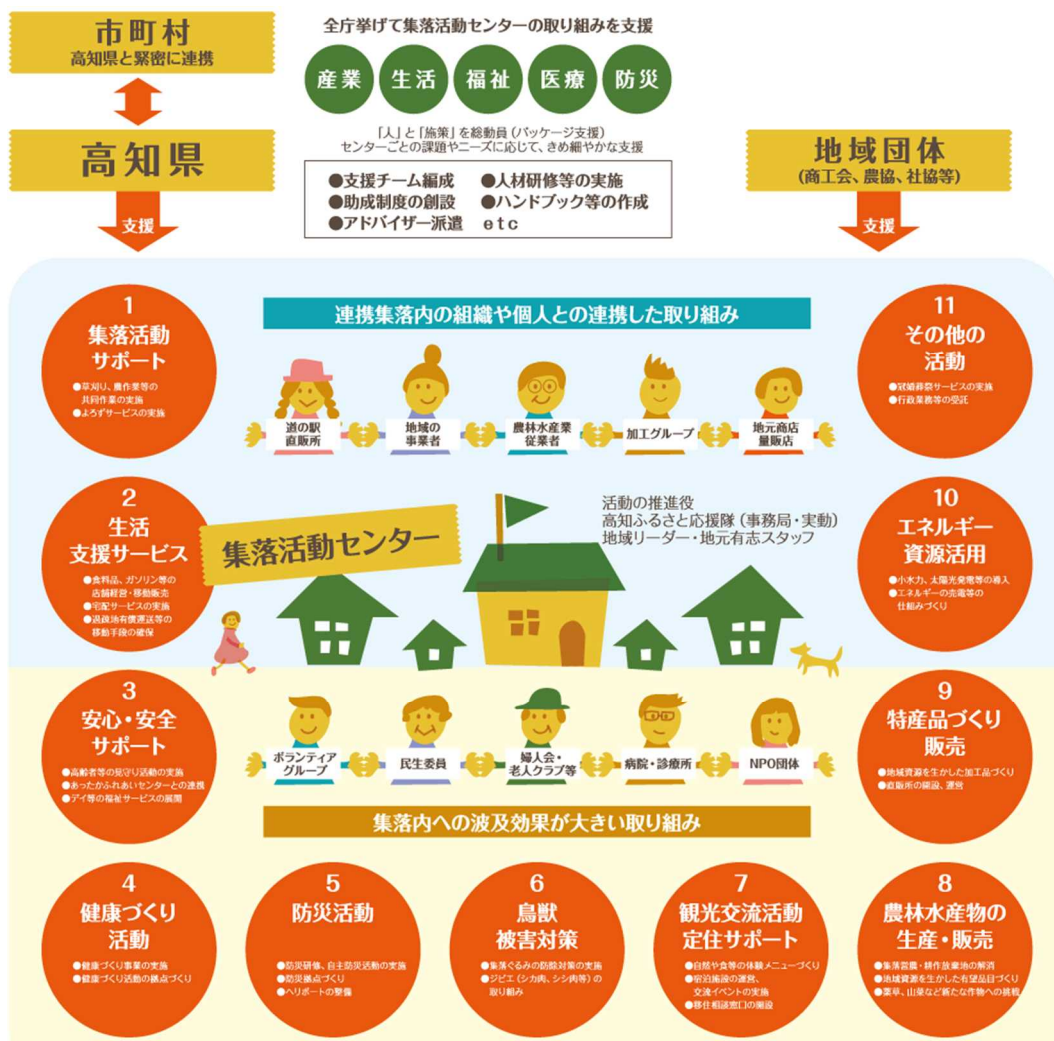
地場産品を生かした特産品作りや販売、移住者用物件の開拓、ウォーキングやお遍路等を対象とした観光事業、地域と保育園や小学校との連携、高齢者サロン活動、高知大学地域協働学部との連携などを進めることで、安和に住み続けたい、移り住みたいと思える魅力的な地域づくりを推進し、地域活動を継続しながらも、子ども

たちの声の聞こえる地域を目指し取り組みを始めた。平成 30 年度から地区人口が増加に転じ、園児や児童も増加している。

◆「あわ」の特徴と活動

- ・ 支援員 1 名が常駐し、その費用は県と市町村から支援。
- ・ 空き家対策にも地域で取り組んでいる。  
県からの移住者情報があると活動センターが空き家所有者と交渉を進めるのでスムーズに話が進む。
- ・ 利益が出るような生産者にとって魅力手的な仕組みづくり取り組みをしている。  
(ふるさと納税の返礼品)
- ・ いたどりのような雑草とも言えるものを活用して遊休地対策にしている。
- ・ 当番制でお遍路さんの受け入れをしている。外国人との交流により多文化共生の地域づくりにもつながっている。

※集落活動センターへの支援体制（高知県）



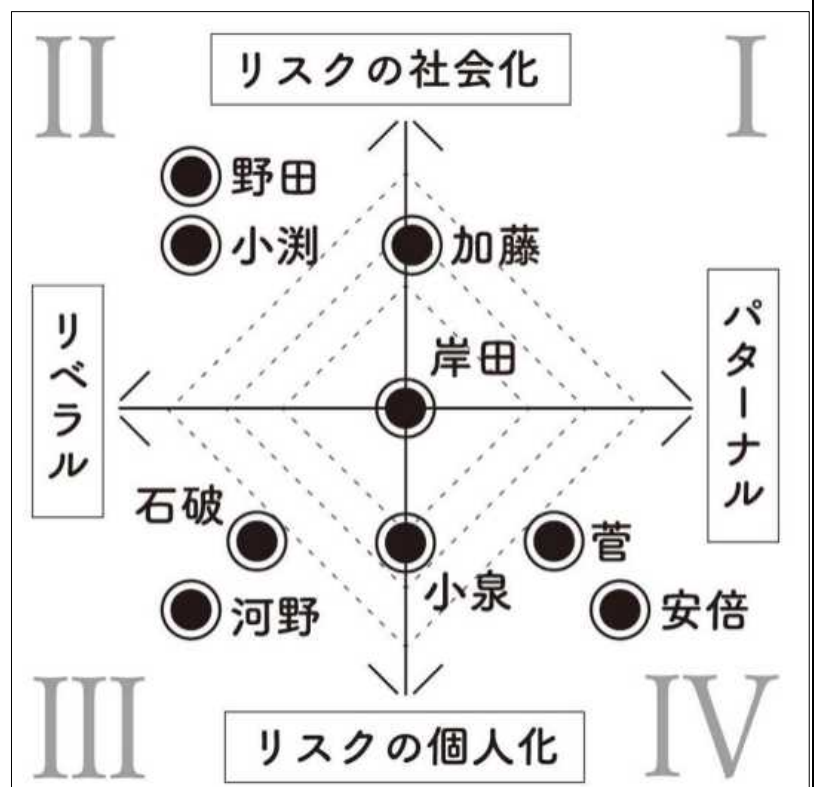
## 2. 全国市議会議長会研究フォーラム in 高知

### (1) 基調講演「現代政治のマトリクス～リベラル保守という可能性」

中島 岳志 氏 (東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授)

#### ①政治のマトリクス

- ・現代政治の流れがどうか。保守とはどういう概念なのか。政治のマトリクス、政治学者として、政治には2つの大きな仕事がある。外交と安全保障。もう一つは、税金をどう使うのか。価値認識、LGBTとかも重要。リスクに対して個人で対応するのか、社会で対応するのか。小さな政府か、大きな政府か。お金を巡って考え方が分かれる。
- ・リベラルとパターナル。30年戦争。キリスト教の争いの結果、生まれたのがリベラル=寛容。思想が異なっても受け入れる考え方。「あなたの考えは認めるから、私の考えには介入しないで」=自由→自由主義。日本ではリベラル対保守→表現が間違い。リベラルに対しては、パターナル=父権的。リベラルの反対はパターナル。
- ・政党、政治家の分類は、保守、リベラルではなく、お金と価値観で分ける。自民党はパターナルだが、安倍首相の政治スタンスは反リベラル。幼児教育の無償化は、社会化に舵を切っているとも見える。
- ・日本は大きな政府をめざすのか、小さい政府をめざすのか。国際比較で国家予算、公務員数を比べると、日本は世界の中で、指折りの小さな政府。公務員の非正規化、脆弱な自治体、災害に弱い。これが進んでいる。多少財政を増やしても、平均には届かない。自民党がもともとそうだったかといえそうではない。
- ・40～50年前の自民党。IIの田中角栄、Iの大平正芳の時代。1970年代福祉元年。当時自民党の幹部は保守の危機を訴えていた。自民党の支持基盤の厚い農村部から都市への人口流入→政治は革新へ→1968年東京都美濃部革新都政。
- ・危機感から、地方へもお金を回す。田中と大平の出



自・政治思想は異なるが、戦略的に一致。大平は頭が良かった。魅力であり強さだった。田中は、民衆の前で心をつかむのがうまかった。

- ・日本では、田中・大平ラインが保守本流。今は、それがずれてきている。80年代に、田中路線では日本は財政破綻する。中曽根内閣。国鉄解体、官から民へ。
- ・本格的な官から民へはⅢの小泉純一郎。構造改革、規制緩和、市場主義。自民党の大きな流れの一方で、野党はどうするか。
- ・希望の党が突然できてつぶれた。Ⅲの小池とⅠの前原の組み合わせは、ななめのマトリクス。真逆の人が組んで、何をしようとしているのかが理解されなかった。
- ・そこで、Ⅱ受け皿として、枝野立憲民主党、排除された人たちの支持を集めた。ななめで組むのはリスク。
- ・自公連立はⅣとⅡの組み合わせ。ななめはリスク。

## ②ラディカルデモクラシーとポピュリズム

- ・枝野、ラディカルデモクラシー。80年代以降、新自由主義は官から民へ。
- ・二大政党制では、互いの政策が似てくる。小選挙で勝つために、少数者の意見に耳を傾けなくなる。
- ・投票率が下がる。有権者の意識は、投票に行っても何も変わらない。民主主義の危機。主権者が主権から阻害されている。これを立て直さないといけない→ラディカルデモクラシー論、枝野氏。
- ・枝野「あなたが直接参加できる」しかし、立憲民主党は1年で人気が下火に。ラディカルデモクラシーは熱しやすく冷めやすい。
- ・立憲民主党と国民民主党との間で、野党第一党はどちらかの主導権争い。国民に永田町の論理が見える→住民は冷める。
- ・山本太郎もラディカルデモクラシー。しかし、枝野とは違う。
- ・ラディカルデモクラシーのパターン。熟議デモクラシーと討議デモクラシー。
- ・熟議デモクラシーは単に投票するだけでなくタウンミーティングとか、住民が直接参加をする→立憲民主党。
- ・山本太郎は討議デモクラシー、何と自分が違うのか、対立軸を明確に見せる。戦いを挑んでいく。
- ・今後、この動きがどうなるか。過去の革新という考え方では支持は集まらない。

## ④保守とは何か

- ・保守の歴史的な原点はフランス革命。理性にうったえるよりも、死したものが長年築いてきた英知、受け継いできたしくみこそが、住民に受け入れられる。

- ・保守するための改革。一步一步変えていくこと、永遠の微調整が大事。京都の老舗でも、時代に合うように微調整して受け継がれている。
- ・保守はリベラルに接近していく。理性は無謬ではない。異なる意見に耳を傾ける、合意形成が保守政治の王道。
- ・大平正芳「政治は60点でなければならない」。人間は間違いやすい動物。100点と勘違いして思い上がり間違いを生む。共産主義国、リベラルな態度を取れない。異論を排除するのは間違い。
- ・これからの野党は、リベラル保守の考え方でいくべきだ。

## (2) パネルディスカッション「議会活性化のための船中八策」

■コーディネーター：坪井 ゆづる 氏（朝日新聞論説委員）

■パネリスト：高部 正男 氏（市町村職員中央研修所学長）

横田 響子 氏（(株)コラボラボ 代表取締役／お茶の水女子大学客員准教授）

古川 康造 氏（高松市丸亀町商店街振興組合 理事長）

田鍋 剛 氏（高知市議会議長）

### ①地方議会の課題

#### a.投票率の低下

[高知市議会選挙例：H23=42.64% → H27=38.06% → H31=36.55%]

#### b.無投票当選の増加（議員のなり手不足）

#### c.議員構成の偏り（女性議員、若い議員の少なさ）

\*a.~c.は今年の統一地方選挙においてマスコミが特に取り上げた項目

#### d.政務活動費の不正使用等

→例外的な事が議会全体のイメージを悪くする。

### ②地方議会の状況

・議会基本条例…制定率 60.8%

・議会報告会、意見交換会…開催率 53.7%

### ③地方議会に必要な視点（横田響子 氏）

・20年後の住民は幸せですか？→長期的視点による議論

・やりっぱなしになっていませんか？→EBPM（Evidence-based Policy Making、エビデンスに基づく政策立案）とともにPDCAを実施。

・若手、女性の参加は？→若手や女性を巻き込んでまちを活性化する策

### ④-1 議会改革の具体的なアイデア（横田響子 氏）

・人口減少を前提とした中長期視点でまちの目指す方向を議論する。

→「未来カルテ」の活用。

\*未来カルテとは、2040年の日本の未来像を予測するシミュレーター。2017年、公開された。誰でもサイトからプログラムをダウンロードでき、全国の自治体ごとに、医療や介護、農業などの各分野の将来推計がわかる。ただ、現状の傾向をそのまま延長した推計値なので、政策や市場の動向次第で将来像は変わる。

- ・ガチンコ議会を多様な人材で実施する。  
→会議で女性が半分程度含めると議論が活発化する。
- ・経験の機会を提供する。  
→中長期戦略を検討する機会、住民参加の事業仕分け、土日夜間などの活用。

#### ④-2 議会改革の具体的なアイデア（高部正男 氏）

##### a. 国として取り組むべき点

- ・選挙制度の見直し  
都市により中小選挙区制の導入や、複数名の氏名を書ける連記制、選挙運動の方法などの見直しなどを議論すべき。
- ・地方選挙の統一  
全国の市町村議員の投票日を統一し、地方自治の日として休日にしてしまう事で投票率の向上を図る、というアイデアも検討されている。
- ・兼職、兼業規制の弾力化  
議員の兼職兼業などをもっと緩和しても良いのではないか。
- ・労働法制の見直し  
一般企業において議員を出しやすくなる為に、休暇、勤務時間、休職などについて緩和策などを検討すべき。
- ・議員の厚生年金への加入

##### b. 各議会で取り組むべき点

- ・休日、夜間議会の開催や、本会議における執行機関の出席者などの見直し。
- ・議員の日常活動の可視化。（議員や議会が何をしているか分からない事への対策）

#### (3) 課題討議「議会活性化のための船中八策」

■コーディネーター：坪井 ゆづる 氏（朝日新聞論説委員）

■事例報告者：滝沢 一成 氏（上越市議会議長）

久坂 くにえ 氏（鎌倉市議会議長）

小林 雄二 氏（周南市議会議長）

①朝日新聞のアンケート調査から：全国 1788 議会（4 年に一度）

- ・「女性議員」に焦点を当てる。全体の約 2 割が女性ゼロ。まだわずかながらも女性議会が存在する。男性中心の議会の様子が浮かび上がる。
- ・また票の力でセクハラ横行が 25%もあった。
- ・「成り手不足」に関して 27%が課題になっていると回答どう打開していくかで地域の将来像も見える。
- ・「報酬」住民の理解を得て議員専業で暮らしていける報酬を受け取れるようにすることが重要。議会改革として 49 議会が報酬を減らしていた。

②「議会基本条例」について：制定している議会は 63.7%。

- ・基本条例の標準装備化が進む。

③「3ない議会」

1. 首長提案議案をひとつも否決も修正もしていない
2. 議員提案の政策条例をひとつも制定していない
3. 議員個人の賛否を公開していない。

→減少傾向にあるがまだ各地にある。市議会では 9.1%

◇事例発表

①上越市議会：～市議を目指しやすい環境整備への提言～…滝沢一成議員

- ・H28 の 4 月の選挙＝定員 32 名に対し立候補者は 34 人（うち女性は 1 人）  
現在唯一の女性議員は県議選出馬で辞任。議員平均年齢 63 歳  
→この現状への危機感から議長提案で「市議を目指しやすい環境整備検討会」を設置。
- ・市議を目指すことを阻害する現状の要因などを把握し、その改革案を策定する目的で設置した。
- ・目指せないのではなく目指さない→議会に興味がない➡やりがいや存在意識がない
- ・議会の魅力を見せ、魅せなきゃはじまらない→議会の見える化  
ステップ 1. 心の問題解決  
ステップ 2. 物理的要因（お金・ひと）／環境的要因（社会・地域～家族）
- ・H29～検討スケジュールは 1 年がかりである。計 19 回にわたってのミーティング
- ・ホワイトボードミーティングを基本手法に採用。  
\*議会の会議と極めて親和性が高いので手法としてはお勧めである。
- ・市民との意見交換について  
→なぜ若者・女性は目指せないのか。どんな阻害要因をなくしたらあなたは出馬するか。市議会に求めることなどをテーマ。



- ・ 20 回の会議を経て諮問から 1 年後に議長に提言書を提出
- ・ 市議を目指しやすい環境整備検討会の結論
  - 「議員を目指しやすい環境整備」への 5 つの大項目と 19 の小項目
  - 結果として早急に取り組むべき 7 点とは
    1. 議会傍聴の改革・活性化
    2. 模擬議会、議会体験学習の実施
    3. 意見交換会の改革
    4. 広報 PR の充実
    5. 選挙マニュアルの作成
    6. 議員報酬の適正化
    7. 女性フォーラムの開催
- ・ その他の活動
  - a. H30 に意見交換会を見直し常任委員会ごとに団体及びテーマを設定して実施。
  - b. 議会モニター制度（アンケートモニター 500 名 コアモニター 30 名）
    - H30 にアンケートモニター実施。
    - 令和元年にコアモニター会議開催中。
  - c. 女性フォーラムを令和元年 8 月開催済み。
- ・ 議員定数及び報酬等の在り方検討委員会は時間切れて継続中である。
- ② 鎌倉市議会：久坂くにえ議長（女性最年少議長）
  - ・ 議長の当選時は 28 名のうち 10 名が女性議員
  - ・ 顕在化した課題
    - a. 会議規則…出産が欠席事由として規定されていない。期間の明記もない
    - b. 会議の運営…多様なバックグラウンドを抱える議員への配慮はない。行政職員への影響（会議の終了が夜 9 時 10 時にもなる。2 次保育が必要）
- ・ 現在の潮流として
  - 2015 年：女性活躍推進法施行…豊かで活力ある社会の実現のため。
  - 2018 年：政治分野における男女共同参画推進法の施行…家庭生活との円滑かつ継続的な両立。→果たして、男女ともに個性と能力を十分に発揮しているのか？
- ・ 環境整備において
  - a. 出産に伴う議会の欠席に関する規定について
    - 取得期間及び運用についての考え方を明示。

b.子の看護休暇に対する規定の整備

c.配偶者出産休暇の取得

d.ジェンダーに考慮した議会のための行動計画に則った議会における仕事と家庭の両立支援のためのインフラ及び議会文化の整備または改善

・会議規則は自ら変えることができるのである。

③周南市議会：小林 雄二議長

・H16に議員報酬問題により「周南の夜明けを導く会」が議会解散要求に向けた署名活動を行い127,000の有権者数のうち70,915の署名を集め選管に提出。

→解散投開票・・・即日解散

→この事をキッカケに議会改革に取り組み始めた。

・議会改革の目標は「市民により開かれた市議会」「議会活動への市民参画を促す」「市議会に関心をもってもらう」。キーワードは「公開」と「対話」。

・議会改革の歩みで特記すべき項目

a.委員会懇談会（ミニコン）制度の導入、開催。

b.携帯サイトをオープン 携帯で見ることのできる議会サイトを立ち上げた。

c.議員定数の削減 34名→30名に。

d.本会議のインターネット中継をスタート（H24）

e.こども議会を開催（H26～）

f.委員会提出議案として地域医療を守る条例を制定：議会提案による政策条例（H27）

・行政監視機能の充実を図った。

→特にも問題のあった指定管理制度に関する調査に関しては閉会中28回行った。

・その他：100条委員会の開催

H22年 防災行政無線設備整備工事における契約議案の上程の見送りや、数度の行政報告を経た後の契約議案が上程・可決にも関わらず、請負業者が工事に着手できない。その後契約解除をおこなうという異例の状況に陥った。

H23 100条委員会を設置して調査・・・報告書が賛成多数で可決

→防災行政無線設備整備に関する要望決議が前回一致で可決された。

・おまけ：「市議会行政視察受け入れ拡充事業」・・・積極的に視察を受け入れている。

→H30 92件 745人

【所感】
□梅木 忍
<p>1. 集落活動センター「あわ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域づくり活動の【本来のあるべき姿】を感じた。サロンや野外イベント等、様々な層の住民とのつながりで地域を活性化している。企画力もさることながら、携わっている方々の地域を愛する心に胸を打たれた。活動には、やはり利益も伴わないと、やりがいにはつながらず、「役所の下請け的な」という不満や、やさぐれの・投げやりな活動につながってしまうのだろう。そして、大胆な地域改革は、やはり「危機感から」に尽きる。</li> <li>・十分に魅力的な美しい地域であるので、空き家を活用して、都会からの「終の棲家」「天国の楽園」を求めての移住も期待できるのではないかと感じた。</li> </ul>
<p>2. 全国市議会議長会研究フォーラム in 高知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リベラル保守とはどういう概念なのか興味をもって臨んだ。リスクの社会化 VS リスクの個人化の Y 軸（縦軸）とリベラル VS パターナルの X 軸（横軸）による 4 分割の理論はわかりやすく、これまでの自民党の 50 年間の变化、官から民への流れや希望の党がなぜ失敗したのか、そのリスクな構図が理解できた。グローバルな例を用いて説明いただいた、保守的リベラルとは、大切なものを守るため斬新的に変わらなくてはならないことでもあり、自由を尊び他の意見を聞くことが重要な政治のマトリクスなのだと捉えた。</li> <li>・議会の活性化のための船中八策を探るディスカッションや討議において、8 策は何であったのか気になる場所である。しかし、北上市議会では報酬と定数をめぐる議論の中で既に行っていることが多々あると感じた。議員のローカリズムの議論があったが、もちろん自分の地域は大事だが、そこを超えないと多様な候補者を立候補させることは難しいと改めて感じた。</li> <li>・政策立案機能も重要であるが、本来の目的とも言える予算に反映させるためには、決算認定、行政評価・施策評価・事業評価等、審査の工夫が必要である。</li> </ul>
□三宅 靖
<p>1. 集落活動センター「あわ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北上でいうと稲瀬地区に近い人口規模である。地域の方々の危機感により維持されており、その活動の幅広さと熱心さにも驚いた。</li> <li>・特に、事務室に貼ってあった、「空き家マップ」は、地域全体の地図に空き家となっている箇所に付箋紙で印を付けており、定期的に調査してアップデートしているとの</li> </ul>

事。視覚化しておりとても分かり易い。参考になる。

- ・ここでも地域づくりの中心は高齢者。ただ、やる気が違うと感じた。また、専任職員が1名だけで、その負担がかなり多いようであり、その解消が課題のようだ。

## 2. 全国市議会議長会研究フォーラム in 高知

- ・EBPM（Evidence-based Policy Making、エビデンスに基づく政策立案）という言葉は初めて知ったが、そもそも政策立案には、その基となるニーズが必要だと思うし、その為のマーケティング的な調査も必要だと思っていたので、この言葉の意味は凄く理解できる。議会のチェック機能として、このエビデンスを提示させる事が大事になってくると思われる。
- ・「未来カルテ」という全国自治体の2040年の姿を予測するシミュレーターは全く知らなかったのが、是非活用してみたい。
- ・決算審議が重要であり、その中から政策提言したり、翌年度予算に対する意見をまとめたりしている議会もあるとの話があったが、北上市議会においも、政策評価と決算審議を合体させて、審議内容から、ある程度の制限的な事を常任委員会単位でまとめるべきだと思う。
- ・時々出てきた発言に「議員は地域の代表」というフレーズがあった。市全体を考えるべきだと思っていたが、現職議長や有識者の方々でも、地域代表という考えを持っている事に少し驚いた。
- ・最初の基調講演の、リベラル保守という考え方は興味深い。少し勉強してみたいと思う。

### □平野明紀

#### 1. 集落活動センター「あわ」

- ・高知県における集落活動センター立ち上げの取り組みは、昨层高知で行われた自治研全国集会（自治労主催）で取り組みの概要を知る機会があり、具体的に現場でどのようなイメージで活動されているのか、直接お聞きしたいと考え、おじゃまさせていただきました。
- ・北上市における地区交流センターを拠点とした地域づくりと比較して感じるのは、自分たちがやりたいこと、必要なことをやる。職場、産業を生み出し、収益を上げる。地域で連携して、移住者の受け入れ態勢を整えている。そうした前向きな取り組みが功を奏し、具体的な地域の活性化、人口増加に結びついていると実感しました。
- ・行事ややることが多く、支援員の方が大変だという状況はあるようですが、小学校、保育園など地域に残すために、移住促進、交流人口の拡大、魅力ある地域づくり、地

域の支え合いなどに積極的に取り組み、成果に結びついているのだと思います。

- ・公民館を兼ねるセンターの施設整備を来年度予定し、さらに、地域の産業活性化をめざした新たな商品開発のプロジェクトなど、今後の事業展開にも意欲的で、そのモチベーションが何によるものなのか、ちょっと不思議な感じがしました。
- ・集落活動センター立ち上げの取り組みは、高知県が主体となって市町村と連携し進められる事業ですが、安和地区では、毎月開催される役員会に、県と市の担当者が出席しているということで、県と市の継続的な支援が重要なポイントではないかと感じました。

## 2. 全国市議会議長会研究フォーラム in 高知

- ・中島教授による第一部の講演では、日本の政治の大きな流れ（80年代はじめまでの自民党と中曽根以降の新自由主義路線）、離合集散する野党に有権者の支持が集まらない、投票率が低下している現状と背景がある意味大きくとらえられていると思いますが、格差・貧困などその背景・土台にある経済・社会システムの分析が不十分ではないかとも感じました。
- ・1990年代政治改革で衆議院に小選挙区制が導入され、日本でも二大政党制に向かうといわれましたが、幾度かの政権交代はあったものの、本格的な二大政党制には至っておらず、政界再編が繰り返されています。講演では、近年の反自民の対立軸と世論の動向が、講師なりにわかりやすく説明されており、政治的指向とマトリクスの組み合わせが、民意をつかむための重要なポイントと受け止めました。
- ・パネルディスカッション「議会活性化のための船中八策」では、投票率の低下、議員のなり手不足、女性・若手議員の少なさなど地方議会の課題を踏まえ、議会改革のアイデアがパネリストから出されました。
- ・選挙制度の見直し（1自治体で50人を選ぶとか）、労働法制の見直し（政治活動の休暇制度）、兼業規制の緩和、公務員の立候補禁止規定の見直し等が出されたほか、議会機能として、決算審査で意見をつけるなどチェック機能をしっかり果たすことが重要だという意見も出されました。
- ・注目したのは、高松市の商店街振興組合理事長の発言でした。連日のように、全国から350を超える議会が視察に訪れる、いわば商店街活性化を成功させている実践者ですが、「議会改革がなぜ必要なのか」「議会の視察、昔は朝から酒臭かったが、ここ10年で様変わりし、真面目になっている」などの評価や、議会活動を市民に知ってもらうのに、「知りたかったら来い。見たかったら見ろ。になっているのではないか。もっと、有権者のところに足を運ぶべき」など率直な意見が出されました。改めて感

じたのは、制度や手続き的なものを見直すことも大事ですが、議員の職務、議会の役割をしっかりと果たし、市民に知ってもらうように取り組むことが最も重要だということでした。

- ・課題討議では、全国的にも先進的な取り組みをされている3人の議員から、取組事例が報告されました。
- ・上越市議会の滝沢議員は、昨年7月、特別委員会で視察に伺った際にも、上越市議会での「市議をめざしやすい環境整備」についてお話を伺い、なぜ、なり手不足なのかという観点から「市民と議会の距離」「選挙の困難さ」「報酬・社会保障等物理的課題」「地域などまわりの環境」「女性特有の壁」など考えられる障壁を解決するための取り組みの洗い出しに取り組まれているということでしたが、半年後に迫った改選に向けて、どのような結論にいたったのかに注目しました。議会の見える化を意識し、可能な情報はすべて公開するなど市民と議会の距離を縮めるための改革は進んでいるということでしたが、最後まで結論が出なかった定数と報酬については、時間切れで先送りされたとのことで、ここまでやっても難しいのかと、議会から報酬引き上げの議論を提起することの難しさを改めて感じました。
- ・鎌倉市議会の久坂議長は、議員になってから出産した自らの経験をもとに、会議規則、議会運営の見直しに取り組み、現在、鎌倉市議会では、28人中10人を女性が占めるまでになっているとのことで、女性リーダーが活躍することで、女性の進出、議会の活性化にもつながっていることを実感しました。
- ・周南市議会の事例では、合併特例期間の議員報酬の取り扱いをめぐり、住民の議会解散請求の住民投票によって解散にいたった経験を踏まえ、たゆまず議会改革に取り組んできたことが報告されました。所管事務調査で指定管理者制度の検証などに取り組まれており、調査権を活用した行政監視機能の強化を参考にしたいと思いました。
- ・行政監視機能、民意の反映、情報公開などをテーマに意見が交わされ、北上市議会の取り組みでも、まだ、これからやるべきことがたくさんあると感じました。タブレットを活用した市民と双方向での意見交換などもおもしろいと思います。